

ENS次世代社会創造人材育成プログラム ～ 2100年に向けた都市づくり ～

受講生募集のご案内

東京工業大学 環境・社会理工学院

ご挨拶

東京工業大学環境・社会理工学院では、大学の使命の1つである社会との連携の推進に向けて、社会人のためのリカレント教育に積極的に取り組んでいます。本「2100年に向けた都市づくり」プログラムは昨年および昨年に開催し、大変好評だった「建築・土木産業に関わるビジネスの技術経営(MOT)講座」をさらに発展させたプログラムであり、当学院において広く都市づくりに関わる研究者たちが、私たちが暮らす都市の未来について、最先端の研究成果を交えながらお話しし、また参加者の皆さんとともに考える機会を提供しようとするものです。主として現在、建設産業に関わる若手・中堅の皆さんを対象としていますが、情報や金融といった都市づくりと関連する産業界の皆さんにも興味をもってお聞きいただける内容となっています。わが国の科学技術をリードする東京工業大学の研究者たちの知に触れシェアする場として企画されており、日々の業務に繋がる自己研鑽としてはもちろん、企業の研修としても自信をもってお薦めできる内容です。皆様のご参加をお待ちしています。



東京工業大学環境・社会理工学院長 中井 検裕

募集要領

受講形態

通期受講のほかに、科目毎の受講が可能です。

受講期間

通期受講：2020年1月～同年9月

科目受講：

- ・Ⅰ「これまでの都市づくりを振り返る」：同年1月～3月
 - ・Ⅱ「自然災害から都市を守る」：同年4月～6月
 - ・Ⅲ「スマートでうまいのある都市をデザインする」：同年6月～8月
- * 科目受講の場合も「オープニング」は受講可能です。

講義時間：原則木曜 15時～17時

- ※科目の一部は、他の曜日になります。
- ※課題等の提出を前提とした自己学習があります。
- ※講義内容が一部変更になる場合があります。

受講対象者

都市環境に関わるビジネスに従事する方。
都市環境について技術と社会の関係を学びたい方。

受講場所

東京工業大学 田町キャンパス
東京都港区芝浦3-3-6 キャンパス・イノベーションセンター
(JR田町駅 芝浦口 徒歩2分)

受講料

- ・通期受講：270,000円(消費税抜き)
 - ・科目区分受講：90,000円/科目(消費税抜き)
- ※お支払方法は振込みにて本プログラム開講迄にお願いいたします。お振込後の受講料の返還はいたしません。

募集人員

30名(最少実施人員数：通期受講15名)

申込み期間

受付開始：2019年 11月 11日(月)

一次締切：2019年 11月 29日(金) 17:00 (締切日必着)

二次締切：2019年 12月 18日(水) 17:00 (締切日必着)

* 科目Ⅱ、Ⅲの申し込み締切について

科目Ⅱの受講申し込み締切：2020年 3月18日(水) 予定

科目Ⅲの受講申し込み締切：2020年 5月27日(水) 予定

申込み方法

願書に必要事項をご記入のうえ下記事務局宛お送りください。申込み用紙はサイトからダウンロードできます。

URL: <http://www.fujimuralab.mot.titech.ac.jp/index.html>

受講審査・受講通知

志望理由書等に基づく書類審査をいたします(申込順)。
受講通知については、メールにてご連絡いたします。
(後日、受講認定証を送付)

修了認定

通期受講修了者には環境・社会理工学院長名で「修了証書」を交付します。

科目受講者には「受講済票」をお渡します。

お問い合わせ

〒108-0023 東京都港区芝浦3-3-6 CIC 907N

東京工業大学 環境・社会理工学院

次世代社会創造人材育成プログラム事務局(藤村研究室)

E-mail: sle-info@mot.titech.ac.jp

プログラム説明会(参加無料)開催

第一回：11月12日(火)・第二回：12月12日(木) 各16:00～

場所：東工大 田町キャンパス CIC 310教室

参加申し込みはメールで受付いたします。「件名」「氏名」「所属先」を記載のうえ、実施日の10:00 までに事務局へお申し込みください。



環境・社会理工学院

次世代社会創造人材育成プログラム事務局

E-mail: sle-info@mot.titech.ac.jp

< 2019年10月作成 >



スケジュールと担当講師

| 回 | 月/日 | 曜日 | 科目 | 科目テーマ | 講義名 | 内容 | 担当教員 | | |
|---------|------|----|--|--|---|--|------------------|--|------|
| 1 | 1/9 | 木 | オー グ レ ー ン | ガイダンス | ガイダンス | プログラムの主旨説明、共通課題提示、等 | 藤村修三 | | |
| 2 | 1/16 | 木 | | 受講準備 | コミュニケーションデザイン論 | 現場の問題から課題を抽出し新たな価値を生み出す解決のデザインを共有するためのコミュニケーションについて理論と実践を紹介する。 | 西條美紀 | | |
| 3 | 1/23 | 木 | I こ れ ま で の 都 市 づ く り を 振 り 返 る | 現 在 の 建 築 ・ 土 木 技 術 を 総 括 す る 建 築 ・ 土 木 の 歴 史 を 踏 ま え 、 建 築 ・ 土 木 技 術 を 総 括 す る | 都市の復興・更新・再生と都市計画 | 戦後、高度経済成長期、そして人口減少時代の都市計画について社会情勢の変化とともに振り返る。 | 中井検裕 | | |
| 4 | 1/30 | 木 | | | 土木史 | 土木分野におけるこれまでの取り組みや試みを振り返り、持続可能な社会に向けた土木技術について構想する。 | 真田純子 | | |
| 5 ※1 | 2/3 | 月 | | | 歴史的建造物の保護・保全 | 歴史的建造物の保護と修復の手法の進歩を振り返りつつ、保全の役割や現代的な意義を語る。 | 山崎鯛介 | | |
| 6 | 2/10 | 月 | | | 社会インフラの維持管理 | これまでの都市づくりに関連して、現在重要となってきた社会インフラの維持管理について考え方などについて議論する。 | 岩波光保 | | |
| 7 | 2/20 | 木 | | | 地方自治体の都市間国際環境協力と環境ビジネス支援戦略 | 地方自治体による、環境ビジネスの国際展開促進を意図した開発途上国都市に対する国際環境協力の取り組みを、事例を通じて発表・議論する。 | 阿部直也 | | |
| 8 | 2/27 | 木 | | | 都市代謝ー生活ゴミの発生・処理・リサイクル | 都市活動の代謝産物である廃棄物のリサイクル・処理について技術的視点から心理的視点まで踏まえてその在り方を議論する。 | 高橋史武 | | |
| 9 | 3/5 | 木 | | | 再生可能エネルギーは環境に優しいか？ | 太陽光や風力発電の導入拡大に伴う環境問題の実情を紹介し、地域と共生するための方策を考える。 | 錦澤滋雄 | | |
| 10 | 3/12 | 木 | | | 私たちはどんな「未来都市」を夢見ていたか | 映画における(近)未来像を主題に、製作意図や建築デザイン等に注目しつつ、革新的な視覚表現を分析する。 | 小泉勇人 | | |
| 11 | 3/26 | 木 | | | ワークショップ | ビジネスの視点でこれまでの都市づくりを評価 | | | |
| 12 | 4/9 | 木 | | | II 自 然 災 害 か ら 都 市 を 守 る | 自 然 災 害 か ら 都 市 を 守 る た め の 将 来 技 術 | レジリエンスと自助・公助の揺らぎ | コミュニティや都市環境の変化や新しい情報技術、起業家の登場等で揺らぐ自助と公助に対するマイクロ、マクロのレベルでの都市レジリエンスを考える。 | 西田亮介 |
| 13 | 4/16 | 木 | | | | | グローバルな環境の将来 | 気候の温暖化による水災害や水資源の変化など全球レベルでの環境変化について紹介する。 | 鼎信次郎 |
| 14 | 4/23 | 木 | 台風リスクの再検証 | 2019年台風15号など直近の台風災害を振り返り、特に高潮・高波リスクについて臨海部の都市化・工業化や台風の再現性に着目して検証する。 | | | 高木泰士 | | |
| 15 | 4/27 | 月 | 首都直下型地震の避難行動と被災予測 | 首都直下型地震を前提に、ビッグデータによる都市構造解析をおこない、避難行動と被災状況を予測する技術を紹介する。 | | | 大佛俊泰 | | |
| 16 | 5/7 | 木 | 地盤防災、地震防災 | 大雨による土砂災害等の自然災害について事例及び対策について議論する。 | | | 高橋章浩 | | |
| 17 | 5/14 | 木 | 建築構造設計の今、耐震・制震・免震技術の未来 | 最新の建築設計技術、耐震・制震・免震技術により都市を守り都市をつくる世界を紹介する。 | | | 竹内徹 | | |
| 18 | 5/21 | 木 | 広域災害軽減技術の未来 | 今後起こり得る広域災害の軽減と、発災後に都市機能がしなやかに回復するための技術を紹介する。 | | | 松岡昌志 | | |
| 19 | 5/28 | 木 | 水環境 | 水環境に関連する問題、水質管理などの状況について議論する。 | | | 藤井学 | | |
| 20 | 6/4 | 木 | ワークショップ | 自然災害から都市を守るプロジェクトを考える。 | | | | | |
| 21 | 6/18 | 木 | III ス マ ー ト で う る お い の あ る 都 市 を デ ザ イ ン す る | 快 適 で 豊 か な 都 市 生 活 を 生 み 出 す 将 来 技 術 | | | 支え合いのコミュニティ | 東日本大震災後の被災地での住民参加型の街づくりや移住者・若者たちの動向から、未来志向の支え合いのコミュニティを模索する。 | 弓山達也 |
| 22 | 6/26 | 金 | | | 次世代インフラ | 新しい構造材料、構造解析手法などによる次世代インフラの設計・管理等について議論する。 | 千々和伸浩 | | |
| 23 | 7/2 | 木 | | | 交通ネットワーク | 交通ネットワーク、モビリティの面からスマートな都市のデザインについて議論する。 | 福田大輔 | | |
| 24 | 7/9 | 木 | | | 現在と未来のロジスティクス | 開発途上国の実情から近未来のテクノロジーまで、ロジスティクスの課題と展望をグローバルな視点から議論する。 | 花岡伸也 | | |
| 25 | 7/16 | 木 | | | 宇宙に広がる社会インフラ | 2100年、人類はどこまでフロンティアを拡大し、どのようにそれを利用しているだろうか？ 皆さんと共に、自由に想像をめぐらせる。 | 秋田大輔 | | |
| 26 | 7/23 | 木 | | | 街づくりの哲学 | 街づくりとは何か、2013年5月に東京都小平市で行われた都道建設に関する住民投票の事例を参考にして、市民参加、行政権力、主権などの問題を考える。 | 國分功一郎 | | |
| 27 | 7/30 | 木 | | | グローバルエネルギーシナリオと都市のエネルギー | 将来を見据えたグローバルなエネルギーと、その中での都市のエネルギーのあり方を考える。 | 時松宏治 | | |
| 28 | 8/6 | 木 | | | 建築設計、空間デザインの未来 | 「良い建築がどのように生まれていくか」を主題に、これからの建築設計、空間デザインの未来を語る。 | 安田幸一 | | |
| 29 | 8/20 | 木 | | | ワークショップ | スマートでうるおいのある都市デザインを考える。 | | | |
| 29 | 9/3 | 木 | M O T | 課 題 発 表 の 参 考 に | サービス・サイエンス | サービスとは何なのかという本質的な議論を学術界での研究の変遷を俯瞰しながら紹介するとともに、サービスのイノベーションに関する議論を深める。 | 日高一義 | | |
| 31 | 9/10 | 木 | | | 社会シミュレーション | エポック的な社会シミュレーション研究を紹介しながら長所短所を説明する。実務上の問題解決のための有用性を考えるきっかけとする。 | 中丸麻由子 | | |
| 32 | 9/17 | 木 | | | 技術者倫理と企業倫理 | 「企業にとって最大のリスクである産業事故を防止するために、なぜ、技術者倫理と企業倫理の両方が不可欠なのか？」について学ぶ。 | 平野琢 | | |
| 33 | 9/24 | 木 | | | | | 課題発表・修了式 | 藤村修三 | |